

和歌山だよいい

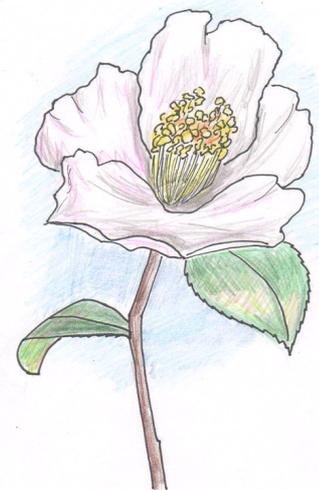
平成21年 11月号



串柿の里 (かつらぎ町)

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P9
3. お知らせ…………… P10
4. ふるさと歳時記…………… P11



山茶花 (さざんか)

「世界遺産登録5周年」

今年「紀伊山地の霊場と参詣道^{さんけいみち}」が世界遺産に登録されてから5周年に当たります。この世界遺産登録のおかげで、わが和歌山県の高野、熊野は世界中から注目されるようになり、訪れる人が大いに増えました。ありがたいことだと思えます。県としても、この世界遺産の意義をさらに世に問うために、一連のシンポジウム、色々な趣向をこらした「体験ウオーク」、県立近代美術館の記念展示などを行っています。ぜひ皆さん参加してください。(予定は*県世界遺産センターのホームページをご覧ください。)

そんなシンポジウムの一つとして県の職員組合の世界遺産シンポジウムに参加しました。「走れコウタロー」で有名な山本コウタロー氏が基調講演をしてくださいましたが、世界遺産の保全こそが我々の使命で、保全を忘れた観光開発は、世界遺産の意義をなくすというものでした。私も同感です。世界遺産を楽しみに来てくださる観光客は、下手な開発行為で世界遺産の持っている雰囲気や壊されたら二度と来てくれません。昔からの高野熊野の素晴らしさを保全してこそ、観光という面でも報いられるものと思えます。

当県の持っている大自然の素晴らしさも同様です。私は数少ない仕事の無い休日は和歌山の山中に出かけます。すると通るのに難渋する道路や鳥獣による被害のひどさ、増えていく休耕田など県庁にいるとわからない県民のつらさがよく分かります。それとともに思うのは自然の美しさです。こんな美しい所はほかにめったにありません。他にないものを大事にする、これが結局は観光や移住交流の発展にもつながると思えます。

このため当県は景観条例の施行、自然公園の見直しなどの一連の環境の保全政策を矢継ぎ早に実施してきました。このためには、多少の不自由を忍んでもらわないといけない方も出てきます。しかし我々の祖先が永々と守ってきたものを大事に次代に伝えること、すなわち保全が、実は我々の明日の暮らしを保証してくれるのです。

* 県世界遺産センターホームページ



定例記者会見での仁坂知事。
記者会見は、毎週火曜日に開催しています。

<http://www.sekaiisan-wakayama.jp/fifth/schedule.html>

今月の和歌山県政トピックス

*最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●「発明の祭典 i n わかやま」開催

・11月14日（土）、15日（日）に、社団法人発明協会和歌山県支部創立60周年を機に、発明協会総裁である常陸宮殿下と同妃殿下をお迎えし「全国少年少女発明クラブ創作展」をはじめ、これまで個別に開催していた「企業の技術展」、「発明のくふう展」等の10イベントを一堂に集め、「発明の祭典 i n わかやま」を、和歌山ビッグホエールにおいて開催しました。また、16日には、両殿下のご臨席のもと発明協会県支部60周年記念式典等をホテルグランヴィアで開催いたしました。このほか、両殿下には、16日に（株）島精機製作所を、17日に県立自然博物館を御視察いただきました。

・両殿下には、優れた企業技術の展示や発明の歩みなどをご覧になり、和歌山県が歴史的に進取の気性に富んだ地域であり、これまで多くの発明が生まれ、これらの発明が本県産業を支えてきたことを改めてご認識いただけたものと考えています。

・また、（株）島精機製作所の御視察では、世界のトップシェアを占める企業の独創的な技術や製品づくりを興味深くご覧になりました。

・この「発明の祭典」が、これまでに培われた長い発明の歴史を礎として、今後、若い人々をはじめ新しい事業に取り組む企業の人たちが元気づけられ、本県産業を発展させるイノベーションを巻き起こすきっかけとなることを大いに期待しています。

○「発明の祭典 i n わかやま」（和歌山ビッグホエール）

・全国の児童生徒の創意工夫作品に触れることで発明の楽しさを体験してもらう「全国少年少女発明クラブ創作展」をはじめ、「少年少女発明クラブの工作教室」、県内の小中学生の優秀な工作作品を展示する「私たちのくふう展」、情報技術に関心を高める「ソフツェア、CGのコンテスト」、科学のおもしろさ、楽しさを体験する「おもしろ科学まつり」、高校生等の研究発表の場である「わかやま自主研究フェスティバル」、ものづくりや情報産業の優れた技術を展示する「テクノビジネスフェア・インフォフェア」、発明を通じた本県産業の歴史を学ぶ「技術の今昔展」、先端技術を学ぶ「ロボットショー」（（株）村田製作所、和歌山工業高等専門学校）、工夫の大切さを体験させる「折り紙ヒコーキ大会」など約130ブースが出展しました。

・約12,000人（2日間の延べ人数）の参加者があり、子供から大人まで「体験」を通じて発明や科学に対する関心が高まり、会場は大いに盛り上がりました。

・両殿下は、「全国少年少女発明クラブ創作展」などをご覧になり、子供たちが科学技術に親しんでいる姿にたいへん御感銘を受けられ、励ましのお声をかけていただきました。

・また、小中学生から大学生までが、学校の先生や科学クラブのメンバーの指導を受け、科学技術に親しんでいるところを御覧になられて、次世代を担う子供や若者を育てていこうとする本県の真摯な取り組みに大いに感心されておりました。



○「社団法人発明協会和歌山県支部創立60周年記念式典」・「平成21年度近畿地方発明表彰式」（ホテルグランヴィア和歌山）

・発明協会本部・県支部関係者、近畿地方発明表彰受賞者など約400人が集まり記念式典等が開催されました。

・式典においては、常陸宮同妃両殿下のご臨席のもと「県支部功労者表彰」や、また、「近畿地方発明表彰」が盛大に行われました。「記念祝賀パーティー」では、受賞者が両殿下からお祝いのおことばをいただくなど終始和やかな雰囲気にも包まれていました。

●観光・食品等について、仁坂知事欧州トッププロモーション実施

・10月19日から25日にかけて、「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録5周年を契機とした更なる外国人観光客の誘致、県産品の輸出促進及び関西国際空港の利用促進を目的に、フランス及びイタリアにおいてトッププロモーションを実施しました。

・ヨーロッパでは、ここ数年、日本食、伝統文化、ポップカルチャーなど日本に対する関心が急速に高まり、フランスでの相次ぐ訪日旅行ガイドブックの発行が追い風となり、昨年の訪日観光客は、フランスでは前年比で14.6%増加し、またイタリアでも同10.8%増加しています。

・こうした日本ブームを踏まえて、本県の観光・食品などを大々的にアピールするため、仁坂知事をはじめ、県議会から坂本副議長と服部農林水産委員長、後藤高野町長、県内の観光事業者・食品事業者など総勢24名がトッププロモーションに参加しました。

・今回のトッププロモーションでは、在フランス日本国大使公邸と在ミラノ日本国総領事公邸において、政府機関、現地の旅行会社や食品会社、マスコミ、出版社などの関係者を招待し、観光・物産プロモーションを実施しました。

・在フランス日本国大使公邸で開催したプロモーションには、パリの有力者137名が出席し、仁坂知事が、フランス語版のパワーポイント資料を用い、和歌山へのアクセスや、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」、風光明媚な自然景観、心地よい温泉といった観光資源、果樹王国に代表される梅や柿、みかん、自然の恵みである海の幸・山の幸、これを生かした名物料理や加工品など、本県の観光・物産の魅力を詳しく紹介しました。（右写真）



・また、在ミラノ日本国総領事公邸においても、36名が出席し、同様のプロモーションを実施しました。

・また、現地の観光・食品等関係事業者と個別に面談しセールス活動を実施しました。

・観光関係では、JNTOパリ事務所、旅行会社、出版社、旅行関係団体などへ訪問し、ヨーロッパの訪日市場の動向調査、和歌山県の観光PR、旅行商品の造成要請などを実施しました。また、ローマ市内においては、日系旅行5社を対象に観光プロモーションも実施しました。



今月の和歌山県政トピックス

- ・食品関係では、県内食品会社6社が日本食材取扱店、百貨店、スーパーの購買担当者と面談し、自社製品をPRながら商談を行いました。
- ・関西国際空港関係では、アリタリア・イタリア航空を訪問し、関西国際空港への直行便の維持、将来に向けての増便を要請しました。
- ・今回の欧州トッププロモーションは、観光振興について、日本の文化や精神性の価値が見直されている中、それらを求める旅行が再認識され、人と違う旅行をしたいという個人旅行者が増加しています。そのような状況で、すでに成果が確立している「高野山」に加え、「熊野」の持つ魅力を十分理解してもらうことが出来ました。また、食品輸出については、今回、輸出に関心のある県内事業者とともに渡航し、日本食材を購入しそうな海外バイヤーとの商談等の機会を設けることができ、今後新たな海外展開が期待できるとともに、参加各社の輸出意欲も高まりました。

●第一次高速道路ネットワーク形成に向けた政策提言を実施

- ・11月19日、仁坂知事が上京して高速道路ネットワークの早期連結を目指す平井鳥取県知事他7県の知事と共同で「第一次的高速道路ネットワーク形成にむけての政策提言」を政府に対して行いました。
 - ・高速道路ネットワークをはじめとする公共インフラの整備は、企業立地や観光振興、農林水産業の振興など、地方が将来に亘り発展するチャンスを保障するものとして、さらには、東南海・南海地震への備えや救急医療活動の観点からも早期整備が不可欠です。
 - ・しかしながら、平成21年度補正予算の見直しにおいて、近畿自動車道紀勢線の御坊から南紀田辺間の4車線化の執行停止が閣議決定され、また、平成22年度予算概算要求の組み替えでは、公共事業費が大幅に削減されるなど、本県のように公共インフラ整備が後回しにされた地域にとって非常に残念なことです。
 - ・本県にとって、県勢発展に不可欠な高速道路などの公共インフラ整備がこれ以上遅れることがないように、これまでどおり、政府に対して主張すべきことはしっかりと主張していきます。
- ※第一次高速道路ネットワークとは、国の骨格を形成するために最も早く整備されるべき、基幹的な高速道路ネットワークを言います。

●「新過疎法制定実現和歌山県総決起大会」開催！！

・過疎地域に対して総合的な対策を行うための法律である「過疎地域自立促進特別措置法」が平成22年3月末に失効することを控え、過疎地域の維持・再生に必要な対策の実現を求めため、10月31日「新過疎法制定実現和歌山県総決起大会」を開催しました。

・大会には県選出の国会議員を始め、過疎市町村長、市町村議会議員、県議会議員など300人以上が参加し、現行制度の中心である過疎債の拡充や総合的に対策を行うための交付金制度



の創設、地域の実態にあった規制緩和など地域の実情を踏まえた対策の実現に向けた決議を行いました。

- ・今後、提案の実現に向けて機会を捉えて積極的に活動していきます。

●知事がブラジル・ペルー和歌山県人会を訪問

・11月7日から9日にかけて、移住先国ブラジルにおいて、和歌山県出身者からなる在伯和歌山県人会連合会の創立55周年記念式典が開催されることに伴い、仁坂知事、富安議長、中村議員、松本議員、谷議員、山本議員がブラジル及びペルーの県人会を訪問し、交流を深めました。

・和歌山県からブラジルへは戦前・戦後を通じ約6,000名が移住しています。特に、戦後は全国に先駆けて移民を送り出すなど、移民先進県として積極的に移住政策を進めてきました。

ブラジル (11/7・11/8)

・サンパウロに到着した11月7日は、開拓先没者慰霊碑への献花を行った後、ブラジル日本移民史料館を見学しました。そして、日系旅行社・新聞社との観光交流意見交換会を開催し、和歌山県の観光資源や産品について紹介しました。



・11月8日の記念式典には、会場の定員を超える約600名もの県人がブラジル各地から集まって来られました。ブラジルの県人会は、戦後ブラジル移民が始まった翌年の1954年に設立され、会員世帯数780と、県人会組織の中で最大規模です。

・1世が数多く残るブラジル県人会は、母県和歌山への望郷の思いが非常に強く、式典に引き続き行われた祝賀会では、各選挙区選出の議員のもとに、ふるさとの情報を求める県人が輪を作り、訪問団の参加者各々が積極的に交流を行いました。

ペルー (11/9)

・ペルーでは前県人会長で元 IMF 役員の斉藤カルロス氏が会長を務めるペルー日系人協会が移住100周年を記念して設立した病院の訪問、移住史料館の見学、ペルー日系人協会への表敬訪問を行い、ペルー県人会主催の歓迎交流会に出席しました。

・会には、多くの県人会員をはじめ、ペルー日系人協会斉藤会長、在ペルー日本国大使館福田代理大使、県人会役員の夫である経済財政大臣のルイス・カランサ氏も出席いただき、有意義な意見交換を行いました。

・戦前までに移住された1世の方の子の世代である日系2世が中心となって設立したペルー県人会には、1世から受け継いだ日本の精神、和歌山の文化を継承していこうとする意志が強く伝わってきました。



世界遺産登録5周年記念

①「海外・国内ネットワークシンポジウム」を開催

・11月4日、和歌山市内において、世界遺産登録5周年記念「海外・国内ネットワークシンポジウム」を開催しました。

・このシンポジウムは、世界で2つしかない「道」の世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」と「サンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼路」の今日的価値を検証、再認識する場として開催したもので、基調講演と仁坂知事をコーディネーターとしたパネルディスカッションを行いました。

・知事の主催者挨拶の後、サンティアゴ巡礼プロモーション会社、シャコベオ社のイグナシオ・サントス・シドラス取締役と高橋文明在スペイン日本国特命全権大使が挨拶を、イグナシオ・サントス・シドラス氏と京都大学こころの未来研究センターの鎌田東二教授が基調講演を行いました。

・また、パネルディスカッションでは、知事をコーディネーターとして、基調講演講師のお二人に加え、那智山青岸渡寺の高木亮英副住職と高野山大学の山陰加春夫教授の4人のパネリストから、それぞれの視点で意見をいただき、議論を深めました。

・約150名の参加者は、2つの「祈りの道」の価値や共通点などについて、熱心に聞き入っていました。



● 世界遺産登録5周年記念

②「国際フォーラム IN 熊野本宮」を開催

・上記記事と同日、グスタボ・アローズ会長をはじめ、世界遺産の指名や保全についてのユネスコの諮問機関であるイコモス（国際記念物遺跡会議）内外の著名人の方々を世界遺産熊野本宮館（田辺市本宮町）に迎え、国際フォーラムを開催しました。

・当日は、県内外から約100名が会議に参加し、同時通訳を交え、先生方の発表や、討論会に熱心に聞き入っていました。

・グスタボ・アローズ会長は、基調講演で、イコモスの組織や活動を紹介し、「世界遺産は500年、1000年後の保存を考えるべきだ。」と、世界遺産条約を手段として保全を第一に考え活動していることを述べました。

・西村幸夫、日本イコモス副委員長は、グローバルな視点から見た「紀伊山地の霊場と参詣道」の価値と魅力をテーマに基調講演を行い、「参詣道は通路としての機能のみではなく、道そのものが浄化の場である。道の途中にある王子社なども含めて、一つ一つの小さな集まりが一体となって、日本ならではの信仰の形を伝えている。その文化的景観に価値があり、世界の文化の広がり貢献している。」と話しました。

・仁坂知事は、パネルディスカッションで、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」とそれを取りまく文化的景観を保存することの必要性を語るとともに、県としても、景観条例を制定し、将来にわたって良好な状態を保っていく強い決意であるとともに、今回の会議をきっかけに、世界の方々と交流を深め、あらゆる方々から様々なアドバイスをいただくようにしていく、と話しました。



●「天皇陛下御即位二十年をお祝いする県民の集い」開催

・10月31日、天皇陛下が今年、即位20年の節目を迎えられたことをお祝いするために「天皇陛下御即位二十年をお祝いする県民の集い」（奉祝和歌山実行委員会会長：片山和歌山県商工会議所連合会会長）が開催され、県内各地より約1,000名が参集しました。

・当日、来賓として、仁坂知事、大橋市長、国会議員、福祉団体、戦没者慰霊団体等32名が出席しました。

・式典では、朝日和歌山県神社庁長が開会の辞を述べ、国歌斉唱の後、片山会長が式辞で、「この「県民の集い」の盛り上がり



を起点に皇室を敬愛する心の輪が一層広がり、皇室と国民を結ぶ絆がますます強まりますことを念願します。」と挨拶しました。また、知事、市長、吉田喜代司和歌山県身体障害者連盟会長が来賓祝辞を行いました。そして、賀詞が満場一致で決議され、万歳三唱で奉祝の気運を高めました。

・式典の後、國學院大學教授大原康男先生が、「天皇陛下御即位二十年を奉祝して」と題し記念講演を行いました。

・また、11月12日、13日の両日、和歌山県では、本庁、各振興局に奉祝の御記帳所を設置し、多くの方々から御記帳を頂きました。

●全国植樹祭 キャラバンカー「キノピーこだま号・やまびこ号」発進！！

・平成23年、春に田辺市で開催する第62回全国植樹祭の成功に向け、和歌山県オールトヨタ（県内トヨタ車販売会社グループ）から、第62回全国植樹祭和歌山県実行委員会に大会広報用のキャラバンカーが贈呈されました。そのキャラバンカーの受け渡しとPRキャラバン隊出発式を県庁正面で行いました。

・和歌山トヨタ自動車(株) 弘田社長からキャラバンカーの鍵が仁坂知事に、そして、ネットトヨタ和歌山(株)海瀬代表取締役から車に取り付けるヘッドマークが富安県議会議長に贈呈されました。

・このキャラバンカーの名称は、「こだま」、「やまびこ」で、大会シンボルキャラクターの『キノピー』の頭にとまっている黄色と青の2羽の鳥の名前と同じです。



・また、海瀬取締役から、森林保全の大切さと第62回全国植樹祭の成功について励ましをいただきました。今後も第62回全国植樹祭の動く広告塔として、「こだま」、「やまびこ」の名の如く、県内をPRに駆け巡ります。こうしたトヨタ各社のご厚意に応えるよう、心のこもった全国植樹祭を和歌山で成功させるように頑張ります。

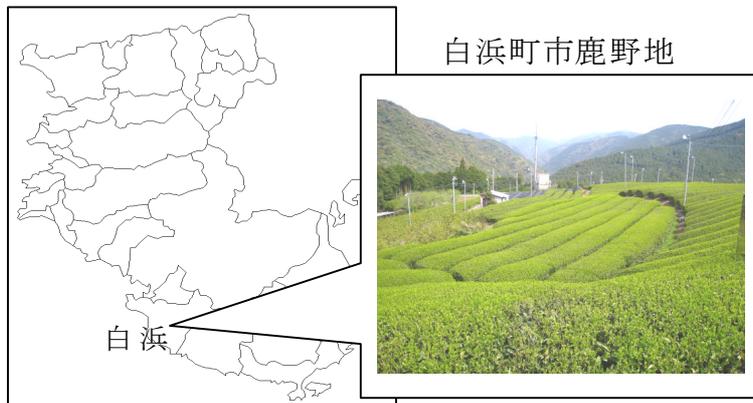
●「わがまち元気プロジェクト第3弾」及び「新農林水産業戦略プロジェクト第5弾」！！

★わがまち元気プロジェクト 第3弾！！

・地域資源を活用したまちおこしに積極的に取り組む市町村を支援する「わがまち元気プロジェクト」の第3弾として、「“南紀白浜・川添茶”の振興と白浜観光魅力アップ」への支援を決定しました。

・日置川の上流に位置する白浜町市鹿野は、山間で日照時間が限られ日置川の豊かな水に恵まれた「川添茶」の産地となっており、その一番茶は静岡市場でも高い評価を得ているところです。しかし、緑茶の消費減少により取引単価が低下するとともに、生産者の高齢化により生産性も低下、また県内での知名度が低いこと等から販売額も減少しています。

・そこで、新農林水産業戦略プロジェクトにより、生産から加工・販売までの一貫した対策に取り組むとともに、「南紀白浜・川添茶」による観光客へのおもてなしや、新たな土産品の創出等、観光との結びつきにより川添茶のブランド力向上と新たな白浜観光の魅力づくりに取り組むものです。



川添茶商品

★新農林水産業戦略プロジェクト 第5弾！！

・第1弾（伊都地方のトマト）、第2弾（海草地方の貯蔵みかん他6プロジェクト）、第3弾（那賀地方の黒豆の枝豆他2プロジェクト）、第4弾（日高地方のミニトマト他1プロジェクト）に続き、10月26日、第5弾として、下記2プロジェクトを承認しました。

①川添茶の生産性向上及び新商品開発、販売促進（紀南農業協同組合（実施地域：白浜町））

「わがまち元気プロジェクト」と連携した、品質向上のための精揉機等の導入、川添茶オリジナル商品（お試用ティーパック、紅茶、べにふうき緑茶）や和菓子店とのコラボ商品の開発。

②ゆずの生産拡大、加工品開発と販路開拓

（農事組合法人 古座川ゆず平井の里（実施地域：古座川町））

加工機械の導入及び新商品（ゆずこしょう、ゆずゼリー等）の開発、ファストフード店や高級スーパー等への販路開拓、交流・販売施設の整備。



ゆず製品

・今後も、地域の魅力や特色を生かした地域おこしを積極的に働きかけ、取組の拡大に努めてまいります。

●第41回世界体操競技選手権大会において、県出身の田中和仁選手が銅メダル獲得

- ・県立和歌山北高等学校出身の田中和仁選手が、10月13日～18日、イギリス・ロンドンで開催された「第41回世界体操競技選手権大会」に日本代表として出場し、初出場ながら安定した演技を見せ、個人総合で4位入賞、種目別平行棒では銅メダルを獲得するなど活躍しました。
- ・その報告に県庁を訪れた田中選手は、「初めての世界選手権でメダルを持って帰れてうれしい。再び、あの舞台に立ちたい。」と感想を述べました。



県庁を訪れた田中選手

- ・田中選手は、4月に開催された「第63回全日本体操競技選手権大会」で個人総合2位、6月に開催された「第48回NHK杯」で個人総合2位、7月に日本で開催された国際大会「体操JAPANCUP2009」では、団体総合優勝並びに個人総合3位になるなど、その実力を発揮している今後の活躍が期待される選手です。

●「第7回稲むらの火祭り」開催

- ・10月17日、広川町役場前「稲むらの火広場」において、稲むらの火祭りが開催されました。稲むらの火祭りは、南海地震津波の来襲が予想される昨今、稲むらの火を再現し、郷土の偉人である濱口梧陵翁の偉業を改めて学ぶことにより、地域の防災意識を高め、新時代における地域づくりに資するものとして開催に至ったもので、平成15年から数えて7回目を迎えます。
- ・広川町役場から約2キロある安政地震襲来時に避難したといわれる「広八幡神社」まで、松明を持って歩く行列には、大人と子ども、約400名が参加しました。
- ・仁坂知事も、祭りに参加し、偉大な濱口梧陵先生を育てた広川町はお年寄りも元気で若い方々も元気で、濱口梧陵先生の信念をお手本にしていきたいとの意思を伝えました。その後、松明の行列に参加し参加者と交流を深めました。

濱口梧陵（はまぐちごりょう） 1820年（文政3年）～1885年（明治18年）

広村（現在の広川町）で分家濱口七右衛門の長男として生まれ、12歳に本家の養子となり、銚子での家業であるヤマサ醤油の事業を継ぐ。

安政元年（1854）、広村に帰郷中、突如大地震が発生し、紀伊半島一帯を襲う大津波に遭遇。

梧陵は、稲むらに火を放つことにより、この火を目印に逃げ遅れた村人を誘導し、多くの命を救い、その後、津波の被害により変わり果てたふるさと復興のために身を粉にして働き、被災者用の小屋の建設、農機具・漁業道具の配給をはじめ、各方面において復旧作業にあたる。

津波から村を守るべく、巨額の私財を投じ、高さ5m、根幅20m、長さ600mの堤防を築き、この大工事に村人を雇用、津波で荒廃した広村復興を果たし、後の昭和南海地震の津波による被害を最小限に抑えた。この広村堤防は、1938年（昭和13年）国に史跡指定されました。

また、他の分野においても優れた才能を発揮し、教育面では、江戸時代末期に私塾を開設、剣道や学業などの指導にあたる。この私塾は後に「耐久社」と呼ばれ、変遷を経て現在の耐久中学校にあたる。

その後、明治4年に大久保利通の命を受け駅通頭に就任したのをはじめ、明治12年には和歌山県議会初代議長に選任され、民主主義を広める活動を展開しました。

「濱口梧陵の復興への信念をあらわした言葉」

「災害百般の庶政に従事し、衆と共に生命を繋ぐも、今尚、坐して席の暖かならざるを覚ゆ。是れ築堤の工を起して、住民百世の安堵を図る所以なり。」（濱口梧陵の手記より）

ふるさと和歌山応援寄附にご協力をお願いします。



ふるさと夢文庫

和歌山県では、皆様からお寄せいただいた「ふるさと和歌山寄附金」をさまざまな事業に活用させていただいております。今回は、その成果の一部をご報告します。

県立図書館には、大活字本や児童書、世界遺産関連の書籍等を取り揃えた「ふるさと夢文庫」を開設しました。一般貸出はもとより小中学校への一括貸出は好評で県内各地から問い合わせや申出が多数届いています。

また、「世界遺産の保全や活用」として、熊野古道中辺路には誘導板や各所にまつわるエピソードを記載した解説板を整備し、スタンプ押印所を新たに16箇所設置しました。紀州材を使い、解説板には英文併記するなど世界遺産にふさわしいものとなりました。

熊野古道にお越しいただき、是非ご覧になってください。



誘導板



解説板



スタンプ押印所

少しずつですが、皆様方の「思い」を形に残し、和歌山の発展につなげていることを大変嬉しく思っています。

今年も残すところ1箇月余りとなりましたが、引き続き「ふるさと和歌山」を応援してくださいませようよろしくお願いします。

☆ふるさと和歌山応援寄附☆

お問い合わせ・申込窓口

〒640-8585

和歌山市小松原通一丁目1番地

総務部総務管理局税務課

担当 塩路、川口

電話 073-441-2186(直通)

FAX 073-423-1192

E-mail: furusato-ouen@pref.wakayama.lg.jp

お問い合わせ窓口

〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-3

都道府県会館12階

和歌山県東京事務所

担当 谷

電話 03-5212-9057

FAX 03-5212-9059

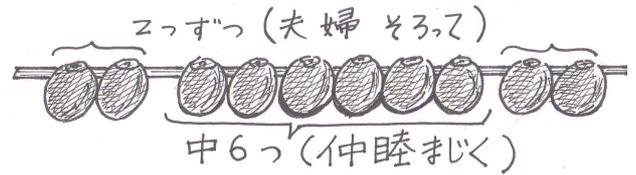
※本年12月末までの寄附が、来年の確定申告での寄附金控除の対象となります※

～ フルーツの町、万葉の里・天野の里、花園 かつらぎ町 ～

かつらぎ町は、旧かつらぎ町と花園村が平成17年10月に合併して誕生しました。

フルーツの町

・ 観光農園も多く、四季折々のフルーツを収穫する「フルーツ狩り」が体験出来ます。(11月は、りんご、キウイ、みかんなど。詳しくは、かつらぎ町ホームページやかつらぎ町観光協会にお問い合わせ下さい。)



・ 串柿の里 四郷（広口・滝・東谷・平）地区は、11月初旬から串柿作りが始まります。1本の竹串に10個の干し柿をさした串柿の形は、三種の神器の一つである剣に見立てているといわれます。晩秋の風物詩串柿。毎年11月23日には「串柿まつり」が開催されます。

万葉の里

・ 万葉の時代から有名な妹背山。妹背の「妹」は「妻」、「背」は「夫」をいう言葉で、かつらぎ町の背山にある、紀ノ川をはさんで仲良く並ぶ2つの山を妹背山といいます。妹背山が万葉集で歌枕（名所の地名）として詠まれた数は、十五首で、全国で2番目に多い数でした。その理由として、今から約1,300年前「大化の改新」で兄山（かつらぎ町背ノ山）が、畿内国（朝廷が治める国）の南限（南の境）として定められたこと。奈良から和歌山の海に向かって旅をしていた万葉人は、妹背山を見て、その姿が、ふるさと大和の夫婦山（二子山）に重なり、この地を境に畿内を離れていくことで、残してきた故郷の妻や恋人を思い、歌を詠んだのでした。

天野の里

・ 高野山のふもと、天野の山。かつて、ここを訪れた白州正子さんは「天の一廓に開けた夢の園」と感嘆したといえます。初夏（6月初旬）の夜空にゲンジボタルの幻想的な光の舞が美しく、平成元年には環境庁の「ふるさといきものの里」に認定。また、世界遺産登録の丹生都比売神社・高野山町石道をはじめ西行庵・横笛の恋塚・俊寛の弟子有王丸など”平家物語”の里でもあります。

花 園

・ 奥高野の里、花園村。かつて高野山に花を供していたことから名付けられました。昭和28年の水害の後、村民たちの努力で奇跡的な復興を遂げた花園地域は、今では金剛緑地広場などにスポーツ施設（野球、テニスなど）やキャンプ場、わんぱく広場や用具のレンタルもある、子供から大人まで楽しめるレジャースポットとして人気です。有田川の清流、「金剛の滝」「恐竜ランド」、一風変わった樽型の宿泊施設「たる村」、水害記念館などがあります。

かつらぎ町ホームページ <http://www.town.katsuragi.wakayama.jp/>

～編集後記～

立冬も過ぎ。季節の上ではすでに冬が始まっています。和歌山では柿の収穫がほぼ終わり、有田の山々がみかん色に輝いています。そして、いよいよこれから寒くなるにしたがい、クエ鍋などの海の幸が旬を迎えます。

さて、今年も早いものであと1月余りを残すのみとなりました。私も4月に前任から「和歌山だより」の編集を引き継ぎ、早8ヶ月を過ぎようとしています。その間皆様方からお手紙やメール、直接お電話やご訪問をいただくなど、貴重なご意見や和歌山に関する資料の提供等をいただきました。あらためて御礼申し上げます。

これからも、皆様方に「和歌山だより」がお手元に届くことが待ち遠しいと思っていただけるよう、内容の充実した紙面づくりに取り組んで参りますので、何卒よろしくお願ひします。

「お知らせ」欄に取り上げた、「ふるさと和歌山応援寄付」についてですが、「ふるさと寄付金」制度が昨年5月に開始されて以来、大勢の方々から篤いご支援を賜り誠にありがとうございます。寄付をして下さった方々の私どもへのメッセージを拝見いたしますと、皆様方のふるさと和歌山を思う熱い思いがひしひしと伝わってまいります。

そうした皆様の期待に応えるべく、仁坂知事を先頭に職員一丸となってふるさと和歌山をもっと良くするよう一生懸命頑張ってお参りますので、引き続きご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

これから、冷え込みが厳しくなる季節を迎えます。皆様方には、お体に気をつけてお過ごし下さい。

知事室秘書課長 藤川 崇

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等でお願ひします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2009年(平成21年)11月 NO.20
和歌山県 秘書課
〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1
TEL 073-441-2022